

都市空間におけるスポーツの導入可能性に関する研究
—滋賀県営都市公園びわこ文化公園を事例として—

阿部 俊彦^{1,2)} 井上 拓磨¹⁾ 岡本 侑也¹⁾

=====
The Potential Contribution of Sports Facilities in Urban Spaces
—Case Study of Biwako Cultural Park in Shiga Prefecture—

Toshihiko Abe^{1,2)}, Takuma Inoue¹⁾ and Yuya Okamoto¹⁾

Urban parks in Japan, which should have served as hubs for sports in urban spaces, do not have sufficient sports environments. Furthermore, while many urban parks are basically free to use, there are restrictions on sports such as ball games. Therefore, there is a need to promote the development of sports environments in urban spaces, including urban parks. In this study, we will grasp the actual situation regarding the presence or absence of sports environments in urban spaces. And we will consider the possibility of introducing sports through social experiments. Finally, as a case study on Biwako Cultural Park in Shiga Prefecture, we would like to propose images and strategies for creating a sports environment in urban spaces.

Keywords; Sports Facility, Urban Park, Mountain Bike, Campus City, Well-being

E-mail: abetoshi@fc.ritsumeai.ac.jp (T. Abe)

=====
¹⁾立命館大学理工学部建築都市デザイン学科、²⁾立命館大学スポーツ健康科学総合研究所

¹⁾Department of Architecture and Urban Design, Faculty of Science and Engineering, Ritsumeikan University
Kusatsu, Shiga 525-8577, Japan

²⁾Institute of Advanced Research for Sport and Health Science, Ritsumeikan University
Kusatsu, Shiga 525-8577, Japan

規模な都市公園である矢橋帰帆島及びびわこ文化公園の3つの公共施設を都市空間におけるスポーツの可能性調査の対象とした。

4. 滋賀県南草津エリアにおける公共施設の分布

4.1 南草津駅前における調査

1つ目は、JR南草津駅前を対象とした取り組みである。南草津駅前のウォークアブルシティに向けたまちづくりは、筆者が副センター長をつとめている草津市のアーバンデザインセンターびわこ・くさつ（以下、UDCBK）が担っている。これまで、ウォークアブルシティの先進事例の学習や、模型を使ったワークショップなどを行い、関係者で議論しながら構想を練ってきた。その次のステップに向かうために、阿部研究室では、2021年の春に、まちをスポーツの舞台に転換するための課題を把握するために、実際に南草津駅の駅前広場で試しにスポーツをしてみる実験を行った（写真1）。学生から「ウォーキングやランニングが楽しもうとしても、車が気になる」「自転車でサイクリングをしようとしてもバスや送迎の車が危ない」などの問題が指摘された。一方で、絶対にできないと思っていたが、「歩行者の動線と重ならない場所であれば、駅前広場でキャッチボールができる」「開店前のお店の前であれば、階段やスロープを使ってスケートボードも楽しめる」などの発見もあった。以上の結果から、南草津駅の駅前広場や道路などの公共空間も、豊田駅の駅前のように関係者の合意と仕組みさえできれば、学生や市民が、スポーツサークル活動の場として利用できるシェア空間に転換できる可能性があることが分かった。



写真1 南草津駅におけるスポーツ実験

4.2 矢橋帰帆島における調査

2つ目は、矢橋帰帆島公園（滋賀県）を対象とした取り組みである。矢橋帰帆島は、約40年前に下水処理場の整備のために琵琶湖の一部を埋め立てて整備された人工島である。島の南側は、遺跡の広場、せせらぎの池、大はらっぱ広場、子供の広場、キャンプ場などの各種スポーツ施設が整備され、市民に親しまれている公園である。しかし、それらの老朽化が進んでいるため、公園の周辺の地域住民（草津市老上西学区）が、小中学生、近隣の大学の学生とアイデアを出し合いながら、新しいスポーツ公園のあり方を提案するプロジェクトである。2021年の秋にワークショップを開催し、現地を歩いた後、大きな航空写真を囲み、様々な課題とアイデアを出し合った。2022年度には、ウォータースポーツ（カヌーなど）の社会実験を実施し（写真2）、その結果を踏まえて提案のとりまとめをおこなった（図2）。



写真2 矢橋帰帆島のウォータースポーツの社会実験

現在、滋賀県・草津市・老上学区まちづくり協議会の3者で、実現に向けた協議が進められている。



図2 矢橋帰帆島の将来イメージ提案（老上学区まちづくり協議会、協力：立命館大学阿部研究室）

4.3 びわこ文化公園における調査

3つ目は、びわこ文化公園を対象とした取り組みである。びわこ文化公園もPark-PFIを導入し、2022年度から段階的にリニューアル整備が始まる予定である。その前段階として、2021年の夏に、周辺の大学（立命館大学、龍谷大学）と連携してアイデアを出し合うためのワークショップが開催された。ワークショップでは、大学生（阿部研究室の学生も参加）が、公園内の施設管理者の関係者にヒアリングを行い、7つの提案にまとめた。

そのうちの1つが「アクティブスポーツパーク」と名付けられた提案であり、そこには、公園内の里山を活かした、マウンテンバイク場・トレイルコース・キャンプ場など、多様なアウトドアのアクティビティを可能とするのイメージが描かれている（図3）。また、びわこ文化公園の周辺には、立命館大学のキャンパス（BKC）内の競技場やジム、2022年に開館した滋賀アリーナなどのスポーツ施設が存在するため、それらのスポーツ施設をサイクリングやランニングコースでつなぐネットワークの整備も示めされた。



図3 びわこ文化公園におけるアクティブスポーツパークの提案

5. びわこ文化公園におけるスポーツ導入可能性調査と提案

5.1 マウンテンバイク施設の導入可能性調査

4.3の「アクティブスポーツパーク」の提案を踏まえて、2023年7月に、びわこ文化公園にマウンテンバイク事業の専門家を招聘し、実際にびわこ文化公園にある里山の調査を行い、具体的なコースの検討を行った（写真3）。その結果、マウンテンバイク施設を導入するにあたっては、保安林の伐採をせずにコース整備が可能なため、里山の保全と施設の整備の両立が可能であることを確認できた。一方で、公園を管理する滋賀県の担当者やPark-PFI事業者からは、整備を進めるにあたって、「現在公園を利用されている個人や団体の活動の妨げになる可能性があること」や、「びわこ文化公園でのマウンテンバイク施設のニーズの有無が不明であること」などが懸念点として挙げられた。

マウンテンバイク施設のニーズを把握するために、「公園にマウンテンバイク施設などの多様なスポーツ施設を導入した将来イメージ」を作成し（図4）、その印象についてのアンケート調査を2023年10月に実施した（写真4）。公園利用者62人の回答者のうち、マウンテンバイク施設に「興味がある」「やってみたい」と答えた方は96.7%、「必要ない」「興味がない」と答えた方は3.2%であった。肯定的な回答された意見として、「自然の中で体を動かして楽しめる」「子供から大人まで楽しめる」「県内には同じような施設が無い」などがあげられた。以上のように、当公園におけるマウンテンバイク施設についての一定のニーズがあることを確認できた。

5.2 その他のスポーツの導入可能性調査

5.1の調査と同時に、マウンテンバイク以外のスポーツの導入可能性を把握するためのアンケート調査を実施した。現況の公園では「軽めのスポーツや運動」「手軽な遊び」の利用が多く占めていたが（表1）、今後やってみたいこととして、「球技」「スケボーなどのストリートスポーツ」のニーズが高かった（表2）。この結果から、当公園におけるマウンテンバイク以外の多様なスポーツ施設についての一定のニーズがあることが確認できた。



写真3 マウンテンバイク事業の専門家との現地調査



写真4 公園利用者のマウンテンバイクのニーズ調査

表1 現況の公園における利用

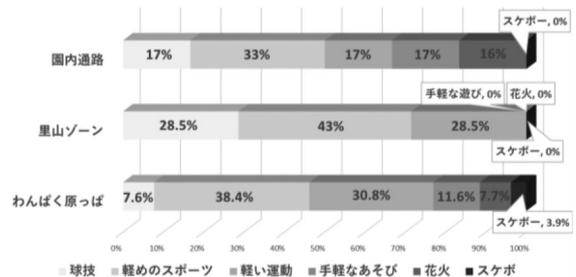


表2 今後公園でやってみたいこと

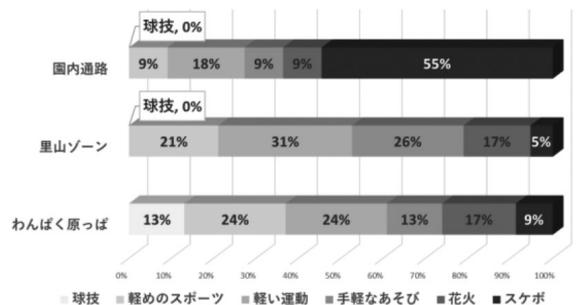




図4 びわこ文化公園にスポーツ施設を導入した将来イメージの提案 (作成：立命館大学阿部研究室)

6. まとめ

以上の調査を踏まえて、南草津エリア全域に散在する既存のスポーツ施設やコミュニティ施設のネットワーク化を図った都市空間のイメージを作成した(図5)。どこでも気軽にスポーツのできるまちなれば、市民や学生の健康的なライフスタイルの実現につながる。その結果として、行政の医療福祉系の財政負担の軽減にもつながり、サステナブルかつ魅力的なまちへと再生されるはずである。東京大学や千葉大学のある柏の葉キャンパスでは、ウェルビーイングをテーマとしたキャンパスシティとして、ランニングコースの整備やウォーキングアプリの開発など具体的なプロジェクトが実装されつつある。これに遅れることなく、南草津エリアにおける「スポーツによる都市デザイン」を推進していく必要がある。



図5 スポーツキャンパスシティのイメージ提案 (作成：立命館大学阿部研究室)

7. 参考文献

- 1) 山下玲、他4名：国内におけるスポーツと都市公園の関係—スポーツ参画人口増加に向けて—、ライフデザイン学研究13、p.359-374、2017年
- 2) 寺田光成、木下勇：地方自治体による街区公園のボール遊びの規制実態に関する研究、ランドスケープ研究、vol.13、p.52-55、2020年
- 3) 国土交通省都市局：都市公園法運用指針（第4版）、平成30年3月